

国際医療福祉大学成田病院ドクターが解説

知っておきたい医療知識

27

前回ご説明した通り、肥満治療の基本は食事と運動です。1か月あたり0.5〜1kg程度の減量ができる場合はそのまま継続しますが、6か月程頑張っても十分に減量できない場合や合併する病気の重篤性から速やかな減量が必要な場合、適切な食事や運動は継続しつつ薬物治療が考慮されます。

GLP-1受容体作動薬

これまで日本における肥

満症治療薬は、脳に働き食欲を抑制するマジンドール(サノレックス)という薬(サノレックス)という薬しかありませんでした。この薬は体格指数(BMI)の薬は体格指数(BMI)「体重(kg)÷身長(m)の2乗」が35を超える高度肥満症もしくは肥満度「(実体重・標準体重)÷標準体重×100」が70%以上の方が適応で、安全性と依存性に十分に注意する必要がある、1回の処方14日間、連続3か月以内の使用制限があり、使用できない事項(禁忌)も多い薬でした。一方、近年GLP-1受容体作動薬という薬の中で、セマグルチド(ウゴービ)が一部の肥満症の方に

肥満と肥満症の薬物治療

保険適応となりました。GLP-1受容体作動薬は、膵臓からのインスリン分泌を促す薬剤として2型糖尿病病治療薬として用いられますが、セマグルチドは肥満症に対する大規模臨床試験で減量効果があることが証明されました。ウゴービは週に一度、腹部に注射する薬で「BMI35以上で肥満に関わる合併症が1つ以上もしくはBMI27以上で肥満肥満に関わる合併症を2つ以上持つ方」が適応されます。処方できる医師も学会の専門医を有するなどの条件があり、投与期間も最大68週と制限があります。オルリスタット(アライ) さらに、肥満を解消する

ための薬剤として、オルリスタット(アライ)が薬局で購入可能となりました。アライはパーゼという脂肪を分解する酵素を抑え、食べ物に含まれる脂肪分のおよそ25%を便に排出することで内臓脂肪を減らし、対象は生活習慣病を発症しておらず、腹囲が男性85cm以上、女性90cm以上の方となります。初回購入前1か月前の生活習慣改善の記録も必要で、薬剤師がいる薬局で購入可能ですが、この薬剤では便に脂肪を出すため、お尻からの油漏れや便漏れに注意を要します。先述のウゴービは肥満症の治療に、アライは肥満症の予防のために使用されます。

重篤な疾患の恐れあるGLP-1ダイエット 最近「GLP-1ダイエット」と称して、この薬剤がインターネットで非常に高値で販売されているのを目にしますが、痩身目的の使用はとも危険です。なぜなら、副作用として、嘔気・嘔吐などの消化器症状や、胆のう炎、急性膵炎などの重篤な疾患を生じる可能性があり、用いる場合は医師の下で定期的な検査が必要のためです。肥満症の治療は、経験のある医師の下で、減量によって医学的なメリットが得られる方に対して、適切に行われる必要があります。 次回は肥満症の外科治療(減量・代謝改善手術)に関して解説します。



竹本 稔 国際医療福祉大学成田病院

糖尿病・代謝・内分泌内科部長(予防医学センター長) / 同大学医学部糖尿病・代謝・内分泌内科教授(代表)

一部の肥満症の方に

さらに、肥満を解消する

非常に高値で販売されているの

国際医療福祉大学成田病院
 ☎0476-35-5600 (代)
<https://naritahospital.iuhw.ac.jp/>
 ■所在地 / 成田市畑ヶ田 852
 ■アクセス
 車の場合: 「太平洋クラブ成田コース」から約1分
 バスの場合: JR成田駅5番のりばから路線バス約15分